

保健医療分野における AI 研究開発加速に向けた人材養成産学協働プログラム 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連 携 校 名)	東北大学 (北海道大学、岡山大学) 計3大学
事 業 名	「Global×Local な医療課題解決を目指した最先端 AI 研究開発」人材育成教育拠点
事 業 責 任 者	副学長 (病院経営担当) 富永 悌二
事 業 の 概 要	
<p>我が国は高齢/高齢化社会、医療者の偏在、働き方改革など多くの医療課題が山積しそれらを克服する必要がある。それらに立ち向かうため、本プロジェクトは「地域ならではの豊富な医療課題をキュレーションし、AI 解決までをデザインできる人材を広く養成すること」を達成目標に掲げ、博士課程人材養成プログラムを全国各地の大学や研究機関、民間企業、自治体と連携し推進するものである。事業構想においては、トップエッジの高さと裾野の広さを強く意識し、AI 人材育成モデルを構築した。教育カリキュラムでは最先端 AI 研究開発に係る講義から始まり、医療現場での実課題に対しそれらの AI 知見を最適に活用する方法を身に着ける。東北大学を主幹に北海道大学と岡山大学が連携し、さらに各エリアの大学が協力することで「Global×Local な医療課題」解決能力を有する「最先端 AI 研究開発人材」を日本全国で数多く養成し、我が国日本の将来の発展に貢献する。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○地域に根差した医療現場の課題を抽出し、AI を活用して課題解決に向けた作業ができる人材を育成するという点は、本事業の目的に照らしても評価できる。</p> <p>○教育課程の基本構造として、「第1段 (レクチャー)、第2段 (チュートリアル)、第3段 (ワークショップ)」の具体的かつ実践的な教育と実習内容が示されており、新規性・独創性の点で評価できる。</p> <p>○各大学の強みや多種多様な企業の特徴をプログラムに組み込む等、層の厚い体制作りがなされている点が評価できる。</p> <p>○事業の裾野を広げることに力点を置き、大学だけでなく医療機関にまで対象を広げようと考えている点については取組の継続性の観点から評価できる。また、教材の有料コンテンツ化や企業からの運営資金調達も視野に入れている点も評価できる。</p> <p>○連携大学を含む詳細かつ具体的な計画となっており実現性が高いと評価できる。補助金が漸減していくにつれ、自律的に運営資金を賄う計画は現実的であり、評価できる。</p> <p>●地域の医療現場に根差したワークショップからどうやって Global Conversion を有する人材を育成できるのか、国際的な面での教育プログラムが見えてこないのが、明確になることを期待する。</p> <p>●多くの民間企業との連携体制が示されており、具体的な AI 開発の「実践の場」として期待されることから、事業実施体制において共同研究や知財管理等の調整を行う場が設置されることが望ましい。</p> <p>●連携する各大学ともインテンシブコースについては、もっと受入人数を増やすことが望まれる。</p>	